

もう一歩先の学びへ

香川大学 アドバンスト・ セミナー

■開催日時・場所

6月26日(月) 14:00～15:30
【工学部キャンパス 3301講義室】

7月 6日(木) 18:00～19:30
【幸町北キャンパス
OLIVE SQUARE 2F 多目的ホール】

～アドバンスト・セミナーってなに?～

大学の学びは、最先端の研究の現場、リアルタイムな社会問題の現場を舞台として、学生のみなさんが教員とともに考えることによって成立します。みなさんに、こういった舞台で活躍する方々の取り組みにもっと間近で触れてほしい、その原動力となる熱意を感じ取ってほしい、そして「大学で学ぶってこんなに面白いんだ!」と実感してほしい。

アドバンスト・セミナーは、そういった願いにもとづいて開講されることになった正課外の講座です。講座では、様々な分野で活躍されている方々を講師に迎え、講師と参加者との双方向のやり取りが行われます。アドバンスト・セミナーは、みなさんがこれまでの学びを越えて「もう一歩先へ」と歩んでいくための道しるべです。



もう一步先の学びへ

香川大学

アドバンスト・セミナー

日時 6月26日(月曜日)14:00～15:30

場所 工学部キャンパス 3301講義室

テーマ 「DNA-合成高分子複合体(DNAコンジュゲート)の
合成と診断応用」

講師 前田 瑞夫 氏【特定国立研究開発法人 理化学研究所 主任研究員】

内容 一本鎖DNAを表面に固定した金の微粒子は、高塩濃度の水溶液中でも安定に分散する。表面のDNAのために粒子間に静電反発と立体反発が生じるためである。しかし、相補的な一本鎖DNAを加えて粒子表面で二重らせんをつくると、粒子は迅速に凝集をおこし、溶液は赤色から紫色に変化する。これに対して、表面DNAの末端部位に一塩基ミスマッチがあると、同じ条件でも凝集はおこらず、色は変化しない。塩基対をつくらぬ核酸塩基が自由に運動することで粒子間にエントロピー反発が生じ、コロイドの安定化がおこったと考えられる。同現象は粒子の大きさや材質によらず普遍的に観測され、変異遺伝子や毒性重金属イオンなどを目視で検出する分子センサーに応用された。この興味深い新現象が学生さんにより偶然発見された経緯に触れながら、研究の面白さと大切さについてお話ししたい。内容は最先端であるが、その理解に特別な知識は必要としない。高校化学の基礎があれば十分である。

日時 7月6日(木曜日)18:00～19:30

場所 幸町北キャンパス OLIVE SQUARE 2F 多目的ホール

テーマ 「神原甚造コレクションの歴史的位置
—収集家の活躍と文化財流出の時代—」

講師 守田 逸人 准教授【香川大学教育学部】

内容 明治～昭和初期にかけて、日本の文化財は市中に大量に流出していた。こうした文化財は海外へ流出したものも少なくはないが、おもに国内の旧財閥系に繋がる財界人や政治家、あるいは思想家など知識人層等によって収集されていった。香川大学初代学長神原甚造によるコレクション(神原文庫)には、まさにこうした流れで収集されたものが多い。セミナーでは、この時代の様々な収集家の歴史的役割を見極めたうえで、神原甚造コレクションの代表的な資料を紹介しながら、同コレクションの特質や歴史的位置について明らかにしていく。

その他 貴重資料の紹介があるため、筆記用具は、鉛筆を使用すること。

お問合せ先

修学支援グループ(研究交流棟1階)

TEL:087-832-1151

E-mail:sogaksen@jim.ao.kagawa-u.ac.jp